

## 京都芸大国際交流アーカイブ

### 2022 年度活動報告

2年目を迎えた「京都芸大国際交流アーカイブ」では、昨年度より開始した「交換留学から辿るキャリアパス」の2度目の開催、そして新たな企画として「受入交換留学生に対する統括インタビュー」を行った。

#### 「交換留学から辿るキャリアパス」

本研究プロジェクトと、教務学生課学生・国際担当、キャリアデザインセンターが共同で開催し、派遣交換留学を経験した本学の美術・音楽修了生を招き、現在の活動における留学経験をお話いただく座談会形式の研究会である。交換留学の成果を可視化するほか、本学学生に対して、国際的に活躍するアーティストや音楽家に、国際的な学び・活動に関して、直接話を聞く機会を提供することも目的とし、学内にて広く参加を呼びかけている。

本年度は、本学大学院修了生であるアーティストの湊茉莉氏と、フルーティストの永野伶実氏を招き、それぞれの現在のキャリアと交換留学との関係を振り返りながら伺った。

両名はそれぞれの派遣交換留学先である、パリ国立高等美術学校（湊）とブレーメン芸術大学（永野）に、本学大学院修了後に再び正規生として留学し、学位を得た経験を持っている。事前に交換留学時の経験に関するインタビューを行ったあと、ウェブサイト上で公開した上で、本研究会中は再渡航した後のことや、現在の芸術活動に関するお話を主に伺った。交換留学をきっかけとして、さらに海外での学びを深め、現在の活動へと繋げていった両名の経験は、交換留学の位置付けを捉えるモデルケースとして貴重なものであり、本研究プロジェクトにとっても重要な証言を記録する機会となった。

#### 「受入交換留学生に対する統括インタビュー」

新型コロナウイルス感染症の影響により、留学生の入国が規制され、本学では約2年間交換留学生の受入を行うことができていなかった。2022年春に同規制が緩和され、今年度前期より交換留学生の受入を再開することとなった。美術学部・大学院美術研究科では、従来は後期のみで開催されていた「留学生展」を前期にも開催し、前期に来日する交換留学生の成果発表の機会が創設された。それに合わせ、この期間中に受入交換留学生全員が集まってもらい、お互いの経験を話しながら、それぞれにとっての交換留学の位置付けや、その経験の価値について振り返るインタビューを行った。前期に来日した英国王立美術大学（以下 RCA）、ミラノ工科大学、パリ国立高等美術学校からの留学生計4名にとっては、長い渡航制限を乗り越え、渡航の延期を繰り返した末にたどり着いた経験だったこともあり、短期間ではあるが強い連帯感を持って留学期間を過ごしたことが振りかえられ、パンデミックという、時代の空気感を強く伴ったインタビューを収録することとなった。後期に来日した RCA、フランス国立高等装飾美術学校からの留学生計4名にも同様に聞き取りを行った。

このほかに、昨年度の留学生展の付随イベントとして、海外出身の学生や教員に依頼し、各国について写真でプレゼンを行った交流企画「Koko-Doko／焚き火パーティー」の記録映像を公開予定である。

今後は、アーカイブ活動の方向性と企画の定着を目指し、長期的に同様の聞き取り調査を行う体制や手法を確立させることに集中し、本学における国際交流の記録とその価値を長いスパンで可視化していく活動へと展開する。

橋爪皓佐





「Koko-Doko／焚き火パーティー」の様子撮影：清水花菜